

発言No. 1

受付No. 12
令和6年2月15日
9時50分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 7 番 氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者 (○をつける) 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 防災対策について

(1) 防災情報について

- ① 今年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の際、浜田市でも津波注意報が出された。その際の情報発信の手段と内容について伺う。
- ② 今の時代、緊急時にスマホで避難情報を入手したい市民も多いと思うが、浜田市の避難情報の入手方法について伺う。

(2) 災害避難の理解啓発について

- ① 自主防災活動や避難訓練など実施しているが、災害時の行動方法や避難準備など市民への理解が不足していると感じる。今後の計画について伺う。

2. 子どもの育ちについて

(1) 幼児教育センターについて

- ① 令和5年4月より浜田市幼児教育センターが設置された。約一年が経過したので、今年度の取組み状況について伺う。
- ② 来年度の取組みについて伺う。

(2) 浜田市子ども・子育て支援事業計画について

- ① 昨年6月定例会議でも質問をしたが、第3期浜田市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けてどのように進んでいくのか伺う。

以上

発言No. 2

受付No. 7

令和6年2月14日

16時00分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 18番 氏名 佐々木 豊治

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、新たな施設整備方針について

今回、三桜酒造跡地活用についての整備方針として、跡地を活用し「屋外広場」と「多目的ホール」を整備し、石見神楽伝承館と建替える浜田郷土資料館を併設し、三桜酒造跡地、こども美術館に併設、浜田城資料館の隣接地のいずれかに整備するとの方針が示されました。

3施設を同時に提案されたということでもとても大きな事業と感じております。

三桜酒造跡地の活用については、今年度の当初予算で令和6年度から8年度で市が買い取る場合になったときの債務負担行為で2億6千万円の提示がありました。

① 今回の活用検討委員会あくまで買い取った場合の検討で、跡地を買い取るかどうかは未定であると思います。

今後、買い取るかどうかの議論はどのようにされようとしているのか伺います。

② 郷土資料館の建替えについては令和2年度の施政方針で「世界こども美術館に併設」との方針が示され、その後、凍結となってきました。

これまで十分検討されて決めた、世界こども美術館に郷土資料館併設案がなぜ変わ

ったのか伺います。

③ 今回提案された、浜田郷土資料館と石見神楽伝承館の併設案はこれまで跡地活用の検討委員会での協議ではなされてきませんでした。この案は市で決めたとのことですが、どの様な経緯で決められたのか伺います。

④ 今回の提案で石見神楽伝承館については神楽の総合的な施設ではなく、神楽を舞う機能は多目的広場で、神楽の資料などを展示する機能は郷土資料館との併設とし、それぞれ分けて行うものとされました。

元々、舞台と資料の一体型施設、神楽伝承館は非常に難しい案件だと思っていました。検討会の提言でも神楽伝承館は「案のひとつに追加することは差し支えないが、内外から多くの人を訪れ、にぎわいのある空間となるような整備・活用ができるか」とされ、十分な検討の上判断を求めるとされておりました。

なるべく集客を伴う施設にしてほしいとの思いが込められたものと思います。

提案では「舞うのは多目的ホール」で、他のイベントも開催できる複合的に活用する施設であることで集客の可能性が広がり、活用が増え、ある程度検討会の提言に沿うものとも思います。

しかし、神楽関係のみなさんは、「にぎわい機能を付随するのは構わないが、にぎわい創出を目的にその一部に神楽伝承施設機能を包含するのは好ましくない」と、伝統的な神楽を奉納できる神楽に特化した一体的な施設を望んでおられるようです。

この溝をいかに埋めていくのかが今後の大きな課題と思いましたが所見を伺います。

⑤ 市内にはすでに民間で整備された神楽舞の舞台もあります。この施設との連携は今後考えていかれるのか伺います。

2、サン・ビレッジ浜田アイススケート場の方向性について

① 今回、サン・ビレッジ浜田アイススケート場について、施設の希少性は高いものの、利用者の見込みの低さや運営経費の高さなどから「屋内人工芝施設または体育館施

設として機能転用を図ることが望ましい」との報告がありました。

想定される3つの活用策案が示され、向こう25年間の事業収支シミュレーションも示され、現状のアイススケート場は高い費用負担の想定となっております。

そこで、屋内案2施設の収入の根拠となっている利用者数や利用料の積算根拠について伺います。

- ② この件について以前も申し上げましたが、市外の利用者が非常に多い希少施設であり「広域で支えることはできないか」との検討をお願いしておりました。

以前の全協で「委託業者と話をする」とのことだったと思いますが、今回の調査検討のなかでは特に触れられておりませんが、どのような協議がなされたのか伺います。

3、(仮称) 島根県浜田市風力発電事業に対する住民対応について

- ① 今回、浜田市内で風力発電事業に取り組む業者から環境影響評価準備書の閲覧が行われておりました。

浜田市では、近年、大型の風力発電事業が相次いで計画されていた経緯から当該住民への影響を心配する声に応じて「浜田市風力発電事業に関するガイドライン」を令和3年に策定されてきました。

ガイドラインでは事業者が地域や住民に対し、配慮や調整すべき項目などを定め、設備の適正な管理運営などを促すことを目的とされております。

1年前、業者による進捗説明が行われたある地域では、様々な心配な声が出され、特に環境や騒音、低周波などに対する心配の声が多く出されておりました。

今回の準備書を受けての説明会が昨年11月に行われたようですが、そこでも同様の声が出されたようです。

しかし、業者からの回答はこれまでの調査などから「そういう事にはならないと考える」との説明で、議論は平行線で終わり、住民のみなさんは「仕方がないので、できてから何か問題が起これば対応してもらおう」との対応にされたようです。

このような、できた後の対応について、市のガイドラインやその他の住民対応ができる仕組みがあるのか伺います。

一般質問発言通告書

議席番号 22番 氏名 牛尾 昭

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 郷土資料館建設予定地について

2月5日の連合審査会や翌日の全員協議会において、市長並びに執行部の跡地利用における熱い思いを聞いた。しかしながら、資料館は、別の施設との複合化をすでに示されており、いくら有識者の検討委員会が石見神楽伝承施設を跡地の候補としても差し支えないと提言されたからといっても、あまりにも唐突であった。以下質問に入る。

- ① 候補地の一つ、浜田城資料館の隣接地は、かつて検討したとおりに津波被害の恐れがあるとのことで、不適となったが、能登地震を見ても明らかであり、候補地にあげた理由を問う。
- ② 次に、世界こども美術館との複合化案は岡田教育長が「一番だと思う」との言葉にもあるように現実的である。実は私は、かつて、その案を一般質問で提案した経緯がある。理由は、人口減少時代に、二つの美術館を維持するのは非常に困難である。かつて、石本先生から石本作品を収蔵する美術館を建ててもらえないかの打診に、当時の市長は、財政面を理由に三隅町の町長に頼み、三隅町に建設された。ところが合併後、結果的に新浜田市には二つの美術館が誕生した。以上の理由により、素晴らしい二つの美術館を維持するために私は複合化案を提案した。このような流れの認識で間違いはないか執行部の認識を問う。
- ③ 次に、三つ目の候補地の三桜酒造跡地について、地元紙は「浜田市長、今なら整備できる」との、刺激的な見出しであった。古くは、平成8年の浜田市観光ビジョン策定において、海浜公園に神楽殿建設と位置付けられた。私も参加していて、いよいよだなとワクワクしたのを覚えている。しかしながら、いまだに実現していない。石見神楽発祥の地として、インバウンド対策の目玉として、石見神楽のあらゆる関係者各位の夢、実現のために、この本会議場で市長の思いを問う。

発言No. 4

受付No. 16

令和6年2月15日

10時24分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 3 番

氏名 大谷 学

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 水産振興と事業理解への取組について

(1) 高度衛生管理型荷さばき所について

- ① 整備のために関わった国・県・市における負担額および運用開始後の成果について状況を伺う。
- ② 市民への事業理解に向けての広報活動として取り組んでいることは何か、現状を伺う。

2. 歴史文化の継承と文化財の保存整理について

(1) 浜田が題材となった大学入試共通テスト地理について

- ① 令和6年1月13日に実施された共通テストの地理第5問題において浜田を題材にした地域調査に関する問題が出題され、新聞紙上でも大きく取り上げていた。このことをどのように受け止めているか、認識を伺う。

(2) ふるさと歴史探究プロジェクト「高校生学芸員」の成果について

- ① 令和4年12月に委嘱された浜高・浜商・浜水の高校生12名の研究成果やこのプロジェクトの評価について、認識を伺う。

(3) 地域系部活動について

- ① 令和6年度教育方針に「地域系部活動」という活動が明記されたが、このねらいや想定している具体的な活動とは何か伺う。

(4) 文化財の現物保存とデジタル化保存について

- ① 現時点における建替を計画する資料館の収蔵庫に収蔵が想定できる文化財数は市が所有する全文化財数の内およそ何点くらいと想定しているか、状況を伺う。
- ② 現物保存の重要性に加え、デジタル化による記録保全も重要と考える。建替を計画している資料館においては、デジタル化を可能にする作業施設を館内に整備する必要があるのではないか、見解を伺う。

3. 学校教育の充実について

(1) 「理数教育の充実」に向けての成果と課題について

- ① これまでに得られた成果および今後の課題は何か、認識を伺う。
- ② 令和4年9月定例会議の個人一般質問において「理数科への進学者数の動向も評価指標の1つ」との意味の答弁が教育長からあった。その後の進学者数の動向をどのように受け止めているか、認識を伺う。

発言No. 5

受付No. 1

令和6年2月1日

9時40分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 8 番 氏名 川上 幾雄

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

浜田市でも、医療・財政・インフラなどは喫緊の課題として取り上げられている。この度の能登半島の震災は、私たちの足元でも十分起こりうると痛感し、これらの課題に、行政、議会が協働して取り組まなければなりません。そこで、浜田市の未来、市民生活の今後に向けて道筋を創るものとして、大枠3点の質問を行い第一歩としたい。

1. 今後の医療体制について

(1) 浜田医療センターの現状や将来について

- ① 済生会江津総合病院が来る4月より「介護医療院」を新設される。そこで、県西部の拠点病院・浜田医療センターに何を期待するかを問う。
- ② 医療センターの抱えている課題をどのように捉えているか問う。

(2) 市内医療機関への支援について

- ① 医療センターへの財政支援等をどのように考えているのかを問う。
- ② 市内他医療機関への財政支援等をどのように考えているのかを問う。

2. 今後の財政について

(1) 市の財政状況を示す指数について

- ① 財政力指数が示す財政状況をどのように判断しているのかを問う。

(2) 普通財産と財政について

- ① 普通財産の譲渡を財政改善の一助として取り組んでいるのかを問う。

3. 今後のインフラについて

(1) 水道施設について

- ① 老朽施設の更新や耐震化の進捗状況を問う。
- ② 被災時の対策を検討しているかを問う。

一般質問発言通告書

議席番号 2番

氏名 村木勝也

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 令和6年度の防災をはじめとした危機管理について

(1) 「令和6年能登半島地震から2か月 改めてお聞きしたいこと」について

- ① 令和4年9月定例会議でお聞きした、「浜田市地域防災計画書に地区防災計画の規定を盛り込む予定」を伺う。
- ② 令和4年12月定例会議でお聞きした、「訓練の事前は何を話し、決めておくことが必要かといった手引書や話し合いの支援は、どのようにされるのか」を伺う。
- ③ 令和4年6月及び令和5年6月の定例会議でお聞きした、「都市公園(運動公園)施設における避難について、公園内一斉に情報が伝達できる放送設備の整備」を伺う。
- ④ 令和4年12月及び令和5年6月の定例会議でお聞きした、「防災公園ではないものの、災害時において多くの避難者が見込まれる。必要な防災機能の整備の検討状況(トイレ環境整備のスケジュール含む。)」を伺う。
- ⑤ 令和4年12月定例会議でお聞きした、「指定緊急避難場所、指定避難所及び福祉避難所等において、防災の視点から再生可能エネルギー導入の考え」を伺う。
- ⑥ 令和5年9月定例会議でお聞きした、「災害時における学校給食施設の利用を関係部署と事前協議をしておく必要性」を伺う。
- ⑦ 6月の浜田市総合防災訓練において、令和5年9月定例会議でお聞きした、「物資輸送や医療救護等の訓練の内容」を伺う。

2 三桜酒造跡地活用等の対応方針について

(1) 整備にあたっての基本的な考え方について

- ① 対応方針として跡地に「屋外広場」と「多目的ホール」を整備し賑わいの場となることと、三桜酒造跡地の公共活用に関する提言書の「2. 検討にあたって配慮した事項」との関係伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
 (○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 政策決定におけるプロセスのあり方と組織改革について

(1) 政策決定に至るまでのプロセスと住民意見反映について

- ① 今までの政策立案から実行までのプロセスの中で、庁内プロジェクトチームや外部検討委員会等様々な検討手法がとられているが、手法選択の基準について問う。
- ② 本来計画立案時から市民の意見を反映させるシステムが必要なはずだが、最近の方針決定がなされた後に市民へ情報提供されているのではないか。市民主体のまちづくりを進めるためにはいかに市民の視点を反映させる仕組みを作るかだが所見を問う。

(2) 政策決定におけるコンサルの活用実態と活用の考え方について

- ① 今まで政策決定や方針を模索するためのアンケート調査等、相当数のコンサル活用があったと認識している。最近のコンサルを活用した案件と金額について実態を問う。
- ② 政策立案等においてコンサルを活用するか否かはどのように決定しているのか。コンサル活用の経費は相当高額と認識しているが、その活用基準に関しての考え方を問う。

(3) 住民意見を反映し職員のモチベーションが上昇する組織改革について

- ① 市政発展のための政策立案・実現のためには市民の意見反映が円滑に行われる仕組み作りは当然、職員のモチベーション向上が極めて重要である。しかしながら本年度を振り返っても中堅職員の離職が目立つがこれをどう受け止めているか市長の所見を問う。
- ② 職員のモチベーション低下の要因については、定量的な問題として「過度の仕事量」があるのではと考えられ、過度の仕事量を是正するためには業務改善が重要である。特に全庁的に効果が及ぶ業務改善としては会計事務があるのではないかと考える。会計事務の業務改善の取組状況を問う。
- ③ 職員のモチベーション低下の定性的な問題として「職員の意見反映」があり、政策・施策に職員の経験や所見を活かすことができる組織改革はモチベーションアップに寄与するのではと考える。「職員提案制度」等により職員の意見を吸い上げると共に、風通しの良い組織への改革を目指すべきと考えるが所見を問う。

2 今後の芸術文化活動の推進について

(1) 浜田市の誇る文化資本の活用の現状と取組について

① 石見神楽、石州半紙、北前船寄港地保存活用の取組状況について

石見神楽・石州半紙・北前船寄港地はいずれも観光戦略としても芸術文化の観点からも極めて重要なコンテンツである。インバウンド施策推進の観点からも、それぞれの保存活用戦略は計画的に進行しているのか市長の所見を問う。

② 「ふるさと教育」推進のため「石見神楽」の教育カリキュラムへの導入について

現在石見神楽振興において、石見神楽蛇胴以外の神楽ものづくり技術に対する文化財指定早期指定や各神楽団体の抱える後継者育成問題等、課題は山積である。実は石見神楽振興議員連盟の事業として、エリアごとに神楽団体へのヒアリングを精力的に実施してきた。その中で若手から、様々な意見が出されたが、浜田愛を養うためにも子供たちの教育に石見神楽の要素を取り入れるべきとの意見が多かった。石見神楽の教育カリキュラムへの導入は有効であると考えますが教育長の所見を問う。

(2) 「郷土資料館・神楽伝承施設」の整備方針と課題について

① 郷土資料館と石見神楽伝承施設の一体的整備の政策形成の過程について

郷土資料館の建て替え事業として既存の施設とのコラボの方針は認識しているが、今後検討に上がる石見神楽伝承館との合築の方針は予想外である。合築に至った検討経過を問う。

② 施設整備と設置場所に関する最終決定に伴う決定プロセスの可視化について

現在市民は郷土資料館・神楽伝承館合築施設として、三桜酒造跡地設置が濃厚ではないかと感じている。設置場所は今後の検討を踏まえ決定とのことだが、今後決定に関しては、市民の意見の反映と決定経緯の市民への可視化は大切なことと考えるが市長の所見を問う。

一般質問発言通告書

議席番号 4番

氏名 三浦大紀

答弁を求める者
(○をつける)

○市長 ○教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

こども基本法が施行されもうすぐ1年を迎える。それに掲げられた理念に則って、昨年末、こども大綱が閣議決定された。その中で、政府の施策においては、こども・若者が「権利の主体」であることを明示するとともに、こどもや若者・子育て当事者と「ともに進めていく」と書かれている。当市において、その考え方が遵守されているか。その状況について、以下質問する。

1、 こどもの権利について

① これについて、市長はどのように考えておられるか。

2、 意見の表明について

① こどもや若者が意見表明できているかどうか、その実態を把握しているか。

② 各部局における政策づくり等において、こどもや若者との接点はどの程度もたれているか。

③ こどもや若者のまちづくりへの参画や意見反映を進める上での課題と、その解決に向けて必要な取組みはどのようなものと考えているか。

3、 浜田市子ども・子育て支援事業計画について

① 同計画はどのような位置付けのものか（こども関連の各事業との関連性を含めて）。

② 来年度の更新にあたって、こどもの参画をどのように担保するか。

③ 子ども計画の策定についてはどのように考えているか。

④ 浜田市総合振興計画との関連性はどのように担保されるか。

以上

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 11 番

氏名 小川 稔 宏

答弁を求める者
(○をつける)

(市長) (教育長) 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 市内における I T 関連企業の現状と将来展望について

I T 企業は人材不足が深刻で 2030 年には国内で 79 万人の技術者不足になるともいわれている。市でも I T 企業の誘致を進めてきているが、県東部に比べて立ち遅れている感がある。製造業における人材不足のなかデジタルトランスフォーメーション (D X) 推進は若者の雇用創出や定住にもつながることからもさらに加速する必要がある。

- ① I T 関連事業の起業、新規参入、誘致の実績と事業規模などの現状について伺う。
- ② 浜田の地域性を生かした事業の展開では先進地域との役割分担と連携が必要と思われるが市としての考え方について伺う。
- ③ I T 事業推進に向けた環境整備、事業者支援も含めた将来展望について伺う。

2. 「聞き取り困難症 (L i D)」への対応策について

小中高生の 1 % に症状がみられる「聞き取り困難症 (L i D)」(以前は「聴覚情報処理障害 (A P D)」といわれていた) については親も含め周囲が気づきにくいといわれる。診断可能な医療機関も少なく診断基準も確立されていない。見過ごせば学習活動やコミュニケーションへ悪影響を及ぼす可能性もあり、いじめ・不登校の原因にもなりかねない。

- ① 聴力検査では異常がないのに、聞き取れない、聞き間違いが多い児童生徒が一定数いることから現状把握をすみやかに行うべきであるがその認識について伺う。
- ② 「聴覚情報処理障害 (A P D)」では「聞き取ることが苦手です」と書かれたコアラの「A P D マーク」等があるが、こうしたツールの活用への考えはないか伺う。
- ③ 教育の機会均等の観点から合理的配慮のための研究や教職員研修等を実施し、国・県へも対応策、支援策を早期に求めるべきだと思うが市長の考えを伺う。

3. 新規風力発電事業に関する懸念について

長見町、鍋石町で計画されている風力発電事業は 2025 年 12 月着工に向けて環境影響評価の準備書が出されている。方法書段階より基数は減ったが風車は大型化している。

- ① 再生可能エネルギーの発電量過剰による出力制御が行われているが、電力の需給状況と今後の電力事業の見通しについて伺う。
- ② 美川水源への影響についてはどのような方法によって確認されたのか伺う。
- ③ 発電会社が何らかの事情で営業廃止、撤退する場合の原状回復の考え方を伺う。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 1 番

氏名 肥後 孝俊

答弁を求める者
(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

人口減少、中山間地域交通空白化、港湾機能老朽化、働き手不足と課題山積で、条件不利地域といえる浜田市ですが、視点を変えれば課題先進地といえる地域と私は捉えています。なぜならば高齢化率で例えると日本の近い未来が、浜田市の今の状況と似通るからであります。

そこで、浜田市で様々な課題を解決する手法、手段を確立すれば他の地域にも波及し日本全体の地域力が向上するものと考えます。石見の中核都市といわれた浜田市を今こそ再興する初年度としていこうではありませんか。歴史を紐解けば石見人は新しいものと古くからのものを融合させ、生活に取り入れながら独自の文化を創り出していたのです。そのような浜田市が今のままではいけない、良くしたいとの思いで、市の取組みについて質問していきます。

1 人口減少は不可避との前提で、人口減少から発生する問題について

- ① 公共交通サービス縮小で、交通過疎地が増加するが改善策について伺う
- ② コンパクトシティ政策について浜田市での取組みについて伺う
- ③ 情報通信技術(ICT)を使いこなす必要性が高まる時代に、学校でのデジタル・シティズンシップ(DC)教育が注目されているが、浜田市での取組みについて伺う
- ④ 浜田市内の閉塞感が若者世代の都市部への流出の主要因と考えるが、対策について考慮されているのか伺う

2 浜田港における産業振興について

- ① 浜田港給油船老朽化に対する支援策について伺う
- ② 船上で採れた魚種を入力し売り上げが見える化出来る「漁業支援アプリ」導入に

ついて検討されているのか伺う

- ③ 浜田沖洋上風力発電の可能性と国・県・市の連携について伺う

3 農業振興について

- ① 指定野菜に 50 年ぶりに追加されたブロッコリーの市内生産量の現状と今後について伺う
- ② 市内生産の農産物の輸出量と今後の展開について伺う
- ③ 農地の見える化で、土壌に最適な肥料の使用量や農地の荒れ具合の管理、作付け状況把握が可能になるが、市域が広く高低差のある浜田市に有効活用できると考えるが所見について伺う

発言No. 11

受付No. 6

令和6年2月14日
8時50分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 19 番

氏名 田畑 敬二

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

能登半島地震から、1ヶ月以上が経過しています。M7.6、最大震度7とされています。死者238人、行方不明者19人、住宅の損壊約40,200戸、交通網の損壊、停電、水道管の損壊による断水等々があります。(2月1日現在)

浜田地震から約150年になりますが、能登半島地震をよそ事と思わず、教訓として、市の防災計画の見直しが必要ではないかと感じます。浜田近辺で同様な地震が発生した場合の市の対応策を伺います。

1. 地震発生時の対応策について

- ① 災害情報(防災情報を含む)の市民への伝達方法はどのような手法か問う。
- ② 基幹管路の耐震化についての実態を伺う。
- ③ 液状化現象等により道路網が遮断されたときの対応策を伺う。
- ④ 一時避難所の設置基準についての基本的な考えを伺う。
- ⑤ 一時避難所の停電時の対応策について伺う。

発言No. 12

受付No. 2

令和6年2月8日

9時58分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 農業特定技能2号について

- ① 人手不足で即戦力となる外国人労働者を受け入れる在留資格が、昨年8月末より農業分野で2号対象が追加になり、2号対象になると在留期間に上限がなく、長期の人材雇用に繋がる可能性がある。市内における農業分野での外国人労働者の従事者数と現在の状況を伺う。

(2) 農業版BCPについて

- ① 気候変動の影響で自然災害が多発する中、「農業版BCP（事業継続計画書）」が重要視されている。災害時の緊急対応をあらかじめ決めておくもので、損害を最低限に抑え、事業の継続や早期再開につなげるのが目的だが、市の考えを伺う。

(3) 仮想現実（VR）について

- ① 農業分野のさまざまな課題の解決に仮想現実（VR）技術が役立っている。栽培技術や農作業安全の研修などができ、VRで初心者の方も篤農家の技を習得できれば、産地のレベルアップに繋がると感じるが、普及に向けた市の考えを伺う。

(4) 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターについて

- ① 浜田市弥栄肉用牛改良流通センターは、JAしまねが運営から撤退する方針を決定され、県内各地に影響する大きな問題であり、定例会議で幾度となく質問をしてきたが現在の状況を伺う。

2 「いわみ留学」について

- ① 「いわみ留学」は、県と県西部の市町村が連携し県外から若者を呼び込み、その若者が地域に一定期間滞在する中で、まちづくりや産業に携わる事業である。若者の滞在人口を拡大し、担い手不足解消や地域の活動を維持するのが狙いとされており、県は2024年度に試験的に事業を実施し、2025年度以降の本格導入を目指すとの報道がされている。人口減少が進む浜田市において、外部人材が常にいる仕組みづくりは、地域の活動を維持するために有効な手段と考えるが、この事業への取り組みについて市の考えを伺う。
- ② いわみ留学を進める中では、地域と留学生を上手くマッチングさせる中間組織が必要と聞くと聞くと、浜田市における状況を伺う。
- ③ 今後、多くの留学生を受け入れるには、各地域に若者に対応した住宅が必要と考えるが、市の対応策を伺う。
- ④ 従来の定住を前提とした外部人材へのアプローチは、今の若者にはハードルが高いと感じるが、「滞在人口」の考え方も含め、今後のU・Iターン施策をどう進めるか伺う。

一般質問発言通告書

議席番号 15 番 氏名 岡本 正友

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(口をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員長

発言項目及び要旨

1・災害の教訓からの備えについて (SDGs1 1)

これまでに多くの災害を経験し、その教訓をもとに法改正のほか、ハード面とソフト面の両面について対応と対策を推進されている。改めて内陸直下型の能登半島地震の被災を検証して「自助」「共助」「公助」の視点で、本市における地域の課題の改善をはかり、そして防災力を高める「誰一人として取り残さない活動」と「自分たちの町は自分たちで守る活動」の「つなぐ」しくみづくりを質す。

(1)「自助」の自分の命は自分で守る備えについて

- ① 能登半島地震における人的被害・住家被害の分析から今後の対策を問う。
- ② 浜田市における自主防災組織率と課題を問う。
- ③ 避難場所・一時避難所・指定避難所の設定と周知及び課題について問う。

(2)「共助」の地域・職場で助け合える仕組みについて

- ① 自ら避難する事ができない災害時要配慮者と避難の確保を図る支援を要する避難行動要支援者の名簿作成の状況と課題を問う。
- ② 2016年に「避難所運営ガイドライン」を、そして2021年に「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」を公表しているが取り組み状況を問う。

(3)「公助」の官地産学のお互いに顔の見える関係づくりについて

- ① 企業及び施設における防災に係る取り組み支援の状況を問う。
- ② 協働のまちづくり推進委員会の編成において防災をテーマに組織化をされた町内があると同う。まちづくりコーディネーターと防災士の関わりを問う。

2・教訓の伝承について (SDGs4)

地域における土砂災害や洪水も含めた災害・震災を受けた経験などを教訓として伝承する取り組みを質す。

- ① 自然災害伝承碑等の設置の実態を問う。
- ② 子ども達に防災をどう伝えるかを問う。

一般質問発言通告書

議席番号 5 番

氏名 沖田真治

答弁を求める者

市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 浜田市地域公共交通計画（案）について

(1) 地域の特性に対応し、高齢者等の公共交通利用者のニーズに合った交通手段の確保について

①令和4年度時点であいのりタクシー事業を利用している団体は、13団体の全てが旧那賀郡となっ

ている。制度を運用する中での課題や実績を踏まえ、まだ利用がない旧浜田市内への普及はどのように

考えているのか伺う。

②事業開始から好評な敬老福祉乗車券事業について、利用しやすく増刷を求める利用者の意見も多くあ

る状況を踏まえると、乗車券事業への予算比率を上げることがニーズに合った交通手段の確保につな

がるのではないかと思うが市の考えを伺う。

(2) 効率的で持続可能な交通体系の構築について

①民間路線バスの減便が相次ぎ、今後も減便、廃線が予想される。生活路線バスにおいても利用者は減

少傾向にある中、市としてバス路線存続をどのように考えているのか伺う。

②効率的で持続性の観点から、乗合タクシーやあいのりタクシー事業のような利用者のニーズに合った

他の交通手段に力を入れることで地域交通の充実を図るのか、方針について伺う。

③国土交通省においては、関係府省庁とも連携しつつ MaaS（マース Mobility as a Service）の全国への急速な普及に取り組んでおり、導入している自治体もあるが、本市はどのように考えているのか伺う。

(3) 利用しやすい交通環境の整備について

①今回示された地域公共交通計画では、若者や学生が活動や生活するための移動手段確保という観点が見受けられない。1月17日に県立大学生と意見交換を行った際、大学へのバス便の時間が合わない、少ないなどの意見があった。都会地と比べ公共交通が十分ではない本市において、学生が活動や生活するうえで移動手段の確保は課題と思っている。県立大学生や市内の学生が活発に活動することで町は活性化されるとも考える。令和6年度の施政方針でも若者対策が示されており、若者の移動手段の充実も対策と言えらると思うが市の考えを伺う。

発言No.

15

受付No. 11

令和 6年 2月 15日
9時 40分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 20 番 氏名 西 田 清 久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 三桜酒造跡地の利活用について

(1) 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館併設の考え方について

① 石見神楽伝承館と浜田郷土資料館を併設で検討された理由について問う。

(2) ふるさと応援基金の活用の考え方について

① ふるさと応援基金の残高が約 25 億円あると言われるが、事業費にどれ位取り崩そうとイメージされているのか問う。

(3) バックキャスティングの考え方について

① バックキャスティングは、浜田市の「あるべき未来」を描き、そこから逆算して現在行うべき事業や活動の優先順位を決めることであって、正反対の手法にフォアキャスティングがある。これは現在を始点として現状からの積み上げの結果として創造されるものであり、未来像が望ましいものであるという保証はない。

市長の言われる「今なら整備できる」という考え方は、フォアキャスティングだと思うが、望ましい未来像についてどのように描いておられるのか問う。

(4) 三桜酒造酒蔵の活用について

① 昨年 3 月定例会議一般質問では、酒蔵は老朽化が進んでいることや残せば多額の費用を要するという理由から更地で取得することが決定された。しかしながら 200 年以上にわたる造り酒屋の歴史と文化を価値の検証も行われずに取り壊されることが浜田の歴史を創ってきた多くの先人に対して申し訳ない思いが湧いている。

検討委員会でも「幅広い世代が憩い、くつろげる場」を望む声が多く、にぎわいや豊かさを生む空間には酒蔵のリノベーション活用が最も望ましいと考えるが、改めて市長の所見を問う。

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 複合施設整備をする前に石見神楽の諸課題と対処について

これまで浜田市世界こども美術館への併設案を軸に市が検討していた「浜田郷土資料館」の建て替えで、別に計画していた石見神楽伝承館との複合化案が、三桜酒造跡地活用に関する検討委員会からの提言を受けたのちの対応方針でこのたび浮上してきました。

(1) 各神楽社中・団体との意見交換会から出た諸課題について

- ① 昨年末、石見神楽振興議員連盟と各神楽社中連絡協議会に所属する団体と初めて意見交換会を実施しました。観光目的で神楽を舞うための場所や箱物ありきではなく、「石見神楽を創り出したまち」浜田として、歴史を学ぶことができ文化として後世に何を伝え・何を残すのか、そのためにも情報発信拠点としての整備が必要であると確認しつつも、多くの団体からは「新たな施設を整備する前に団体が抱えている諸課題に対処する道筋をつけるのが先ではないか」との意見が多数ありました。市長のご所見を伺います。
- ② 後継者不足は大きな問題で、神楽教室や子供神楽の指導はしているが後継者育成に追いついていない実情があると伺いました。特に旧町村部では高齢化で引退者も多くなり舞い手が足りず実施できない演目もあり深刻な状況になっています。少しでも後継者不足を解消するためにも、学校教育を通じた青少年への魅力発信は重要であると指摘があったところですがご所見を伺います。
- ③ 観光協会から依頼される神楽出演料が安いという声が多数あります。例として夜神楽が行われている三宮神社出演料5万円としている根拠を伺います。
- ④ 運営的には出演機会の減少や奉納神楽での御花（寄附）が年々減少しており、どの社中も財政状況が厳しいと伺いました。コロナ禍の中で特別番組の制作で30万円、衣装等を新調するのに申請があれば200万円を限度として補助されたことは大変感謝されていましたが、慢性的な資金繰りの解決には繋がっていないとのことでした。そこで提案された

のが、ふるさと寄附を原資とした各神楽社中協議会で任せてもらえる基金を設け、通常的に支出がかさむ衣裳の修理費や車の維持管理費等などに使える補助制度（無金利）を新設して欲しいと要望がありましたが、対処する考えはないのか伺います。

- ⑤ 各神楽社中・団体は奉納神楽を中心に県外、海外においても積極的に上演され、浜田市の観光振興や地域振興、若者の定住化などにも大きく貢献していただいておりますが、石見神楽蛇胴、石見神楽衣裳、石見神楽面等の神楽関係産業にも大きく支えられ、ともに継承、発展してきました。この神楽関係産業が生み出す、石見神楽を演ずるに欠かせない伝統のものづくりは浜田の地に発祥したもので、まさに「石見神楽を創り出したまち」浜田の礎ではないでしょうか。この産業も作り手の技能は評価されますが、専職として生活が成り立たないとの理由で後継者不足であると聞いています。市として神楽関係産業をどう支えていこうとしているのか伺います。

2 幻の広浜鉄道 今福線について

浜田市に遺構として残る鉄道遺産「幻の広浜鉄道 今福線」、各地の事例発表やディスカッション等を通して、全国の未成線・廃線地域の人達と情報を共有し、鉄道遺産の有効活用や保存等について共に考えるため、2年ごとに開催されている「第4回 全国未成線・廃線サミット in 高千穂」に参加しました。

(1) 各地域の活用・活動事例について

- ① 前回開催地 浜田市から高千穂町にバトンタッチされサミットが開催されましたが、参加された執行部のご所見を伺います。
- ② トンネル活用について事例発表されたところでは、全てトンネル内の舗装、湧水、排水対策がしっかりされていましたが、今福線の見所の一つでもある下長屋トンネルは思ったように未だ整備されていません。長靴を履かなくてもよいように、計画的にお金をかけてでも整備するべきだと思いますがご所見を伺います。
- ③ トンネルの暗闇を活かした取組、公園として整備している取組等は、リピーター確保に繋がる効果があると実績発表がありました。一度は訪れてくれるけど、この部分が今福線は特に弱いと思うのですがご所見を伺います。
- ④ 昨年末、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」として選定されました。大変喜ばしいことですが、どの辺が評価され受賞に繋がったのか伺います。

発言No. 17

受付No. 17

令和6年2月15日

10時27分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 16 番

氏名 芦谷英夫

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、地域の自治活動の推進態勢について

①社会福祉協議会への加入に地域によって差があるが、行政が行う地域福祉活動を社会福祉協議会が担っていることを認識し、協働のまちづくり推進に盛り込み、それを地域に市民に発信することが重要であるが、市民の理解を得て社会福祉協議会の基盤を確立するためにも、加入を促進する必要があるのではないか。

②地域の安全安心づくり、防災や避難なども地域の自治活動によるところが大きいですが、災害情報の受信・発信、避難所の開設、避難の呼びかけなどについて、それを地域で担う主体を明確にし、そのことを地域で徹底、共有されることが重要であり、市として市災害対策本部としてどのように発信し、地域が動けるようにするのか。

2、市民の健康増進に向けた施策の推進について

①浜田市の国民健康保険の特定検診の受診率はどう推移しているのか、受診率は向上しているのか。向上していないとすればどのような課題があると認識しているのか。

②特定保健指導の終了率について、特定健診で再検査や特別の指導が必要と診断された人の、それが終わった人の割合はどのように推移しているのか。終了率が他市に比べ低いとすれば、それをどう評価検証しているのか。

3、高齢者の自立を進める介護サービスの充実について

①訪問入浴介護サービスが存続されるが、廃止とされた理由は、介護に従事する人材不足とされていたが、4月以降はどのような体制で臨み、これまで利用を希望する人が利用できなかった実態もあったが、どのように改善するのか。

②通所リハビリと買い物サービスとを組み合わせ、介護サービスの充実と買い物支援を検討されているが、この取組みに対して市としてどのように支援し、保険者が認可を受けることに結びつけるのか。

③総合事業では介護ボランティア、有償ボランティアを受け入れるよう制度設計されているが、介護ボランティアの充足とボランティア活動につなげるなど、市としてどのように取り組み、介護ボランティア制度の充実を図っているのか、介護ボランティアの現状はどのようになっているのか。

4、高校など魅力化による地域元気づくりの施策について

①高校の寮の整備が進められているが、その進捗状況はどうか。6年度の入寮者などはどのように見込んでいるのか。

②これは、WBC全日本コーチの清水雅治さんの野球指導、オープンスクールによるところが大きいですが、野球以外にもカリスマ指導者による吹奏楽指導の活動もあり、これらに加え新たな事を加え、さらに高校の魅力化を導き出す、このような不断の取り組みが何より重要であるが、専修学校なども含めた学校の魅力化にどう取り組むのか。

5、新しい施策の推進態勢について

①JR便数の確保、バス路線の維持、市民バス、自治会輸送、スクールバス、乗り合いタクシー、あいのりタクシーなど多岐にわたる課題が山積しており、加えてライドシェアの動き、自動運転のシステムなど新たな課題に対処するため、交通対策のための新たな部署を設置し、交通問題を先取りする施策を進める、そのための態勢づくりが必要ではないか。

②マニフェスト大賞を受賞され市役所の政策立案力、新たな提案を受け入れる態勢が待たれるが、そこで企業などと連携協定を結んでいる事例はどのくらいあって、連携協定締結により市政推進に寄与した具体的な事例はあるのか、この制度をどのように評価しているのか。

一般質問発言通告書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 浜田市の医療と介護について

(1) 医療について

- ① 今月13日に市内医療機関において、婦人科の設置をしていただけることが決まり、「婦人科診療開設等支援事業」による支援を行うと通知を受けました。令和6年度当初予算に計上されていますが、どのような診療が行われるのか伺います。
- ② 昨年12月12日の福祉環境委員会において、市内の産婦人科医院の閉院について説明があり、婦人科領域の一次診療への協力について、医師会理事会でかかりつけ医療機関で対応可能な症状について、診察していただくようお願いしたとのことでしたが、新たな婦人科の設置がされても協力をいただくのか伺います。
- ③ 医療に詳しい方から、産婦人科医院が少ないことで受診機会が制限され、そのことが婦人科系疾患の発見の遅れに繋がるとの意見を伺いました。浜田市でもそのような現状が見られるのか伺います。
- ④ 医療センターの診療科の縮小や市内医療機関の閉院など、今後の浜田市における医療体制の維持に不安を感じます。併せて通院のための交通手段の確保も課題となっていることから、訪問診療や遠隔診療も検討する必要があると考えます。
- ⑤ 带状疱疹ワクチンの接種助成については、これまでも訴えさせていただきましたが、その後調査、研究等を行われたか伺います。
- ⑥ 文部科学省が学校健診について、児童生徒のプライバシーに配慮した環境整備に関する通知を都道府県に出しました。浜田市の対応について伺います。

(2) 介護について

- ① 介護人材の不足により、介護事業所のサービス縮小が見受けられます。浜田地区広域行政組合では介護人材の不足を補完するために、「介護応援隊」の事業を実施していますが、登録も少なく実施が進んでいない状況です。この事業に対する市の連携はどのように行われているのか伺います。

- ② 訪問入浴事業については、3月末をもって廃止されることが示されました。他のサービスに移行できない方があれば、市として支援策を講じるとのことでしたが、その後の状況を伺います。
- ③ 国は訪問介護事業所の収益が良好であるとして、2024年度から訪問介護サービスの介護報酬基本料を引き下げます。一部の訪問サービス事業者の方にお話を伺いましたが、とても収益が良好な状況ではないとのことでした。市内事業者の実態をしっかりと確認した上で、実態を国に強く訴えるなどの取組が必要と考えますが、ご所見を伺います。
- ④ 難聴により外出機会が減ることで、認知症の発症リスクが高まると言われています。これまでも加齢性難聴の方に対する、補聴器購入助成制度の創設を求める請願の提出や、議会質問が行われてきました。介護予防を強化するためにも、聴こえの改善を図ることは重要なことから、今後の市の取組をどのように進めていくのか改めて伺います。

令和 6年 2月 13日
11時 30分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17番 氏名 永見 利久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 防災訓練について

昨年6月4日に実施された総合防災訓練、また、12月3日に実施された「浜田地域津波避難訓練」では、災害時に適切な避難行動と防災意識の向上に繋がった訓練であったと思っておりますが、訓練に参加された方々から出された課題や意見に関連した質問を致します。

(1) 総合防災訓練・浜田地域津波避難訓練について

- ① 防災訓練の課題として、町内会等における訓練内容の共有・周知方法について、また、防災無線が聞こえにくい時の対応であるとか、高齢者等の情報取得困難者への対応など数々の意見が寄せられている。また、浜田地域津波避難訓練では、高台への避難、車いすの方の支援、要支援者の方への支援や避難通路の整備についてなど数々の意見が寄せられている。市としての今後の対応について伺う。

2 災害に強いまちづくりについて

能登半島地震の発生により、多くの自治体に甚大な被害が発生し 200 人を超える方々がお亡くなりになり、いまだ安否の確認ができない方もおられる状況です。

また、多くの住宅が倒壊し、道路、港湾などにも被害が発生しています。

浜田市においても、今から 150 年前、島根県西部に浜田地震が発生し、家屋の倒壊は 5,000 棟以上、火災の発生や山崩れが各地で起き、犠牲者は約 550 人に上りました。このような地震災害に備えての取組について質問を致します。

(1) 災害発生時の初動について

- ① 地震発生時「誰が、どこに、どの様に避難するのか」、住民周知の体制について伺う。

- ② 一時避難所の耐震について伺う。
 - ③ 避難所の物資確保と運営体制について伺う。
 - ④ 指定以外の避難所の確保についての考えを伺う。
- (2) 木造住宅の耐震診断、耐震改修について
- ① 能登半島地震で多くの住宅が倒壊した。石川県のまとめでは、能登半島地震で、県内 19 市町で少なくとも 6 万 7,000 戸以上の住宅に被害が発生している。島根県下では、木造住宅は約 20 万戸あり、全戸数の 7 割以上を占めると報道されている。現在の耐震基準改正は昭和 56 年に行われ、国は建築基準法改正以前に建てられた住宅が、震度 6 強～7 程度の地震でも倒壊しないよう耐震化を求めている。浜田市のこの対象となる住宅について現状を伺う。
 - ② 建築物耐震改修促進事業の開始当初より今日に至るまでの耐震診断の実績について伺う
 - ③ 耐震診断結果により、耐震改修された建物の状況について伺う。
 - ④ 建築物耐震改修促進事業での解体助成事業の状況について伺う。
 - ⑤ 地震対策に向けた住宅補強対策について伺う。